

# 第 10 章

## あなたにおすすめの 中・上級英英辞典は、これだ

### ■ *Introduction*

この章は「2冊目以降となる紙版の英英辞典」のご紹介です。いろいろと良質の辞書がそろっていますので、英英辞典にはまったらず、あれこれ試してみると楽しいですよ。章の冒頭には、おすすめのスマホアプリおよび辞書ウェブサイトもご紹介してあります。

## 英英辞典スマホアプリ

第1章で、スマホで使えるおすすめ英英アプリを3つご紹介しました:

- 〈1〉 *Oxford Dictionary of English* (英国)
- 〈2〉 *Merriam-Webster Dictionary* (米国)
- 〈3〉 *LexicEN Lite* 英英辞書 (米国)

このうち〈2〉と〈3〉は第1章で詳しくご紹介したので、ここでは〈1〉について補足しておきます。(スマホアプリを選ぶときの目のつけどころは、まず「見やすさ」「読みやすさ」でしたね)

オックスフォードからは大小さまざまな辞書が出ていますが、1巻本で最大の英英が *Oxford Dictionary of English* です。ムダなく的確な語釈は定評あり。用例も豊富、かつ多すぎず。見出し語あたりの量がコンパクトで、図らずもスマホアプリにも向いていたわけです。この英英に加えて、オックスフォード最大の類義語辞典 *Oxford Thesaurus of English* の内容も読むことができる、そんなぜいたくなアプリが〈1〉です。年額で2,300円となっております。

もとの紙版の辞書はデカすぎて、辞書マニアのわたしでさえ持て余します。スマホアプリのおかげで日常使いできて、いまさらながらオックスフォードの旗艦辞書のすごさを再認識させられました。

## 無料で使える英英ウェブサイトのおすすめは……

英英辞典のウェブサイトは数多くありますが、無料のものはポップアップ広告のオンパレードで、とにかくわずらわしい(広告ブロックの裏技いろいろあるようですが、わたしはまだ門外漢なので、ここでは立ち入りません)。そんな中でひとつだけ、どなたの使用にも

堪える無料英英ウェブサイトがあるのでご紹介しておきます。

### 〈4〉 *Longman English Dictionaries*

<https://www.ldoceonline.com/dictionary/>

(www. の直後の文字は「l(アイ)」ではなく「l(エル)」です)

なぜサイト名が Dictionaries と複数形なのか。 *Longman Dictionary of Contemporary English* (LDOCE) と *Longman Business English Dictionary* の2つの辞書の内容がこのサイトで無料検索できるからです。

LDOCE はロングマンの上級英英です。この旗艦辞書の見出し語はもとより辞書本文のすべての用例も、ネイティブ話者が読んだ録音音声で聞くことができます(囲み記事内の用例や、コーパスから新たに採られたウェブ版独自の用例には音声はついていません)。わたしは対面レッスンでもオンラインレッスンでも、受講者への英語発音指導にこのサイトを利用しています。

こんなに優れた内容の英英サイトが無料で使えるのに、広告はおとなしめで、十分使用に堪えます。なぜロングマンがこんな大サービスをしているかというと、ちゃんと理由があります。もともと LDOCE には広告なしの有料版英英サイトがありました。紙版を買った読者も裏表紙の銀色シール下の暗証番号を入力すると有料版サイトにログインできる仕組みでした。ところがロングマンはこの無広告有料サイトを2022年に突然閉鎖し、代替として広告つき無料サイトに誘導することになりました。ビジネスモデルを変えたわけですね。

経緯はともあれ、利用しない手はありません。LDOCE は上級辞書ですが、語釈は基本2,000語のみを使って書かれています。紙版 LDOCE の最新版(第6版)は文字が極限まで小さく読みづらいのですが、ウェブ版はレイアウトもフォントもじつに読みやすい。

検索した最初の1語、2語は、ポップアップ広告がわずらわしい場合がありますが、それを過ぎればポップアップ広告はおとなしくなります。

### おすすめの中級英英辞典は、こちらです

さて、本題に戻りましょう。前章にひきつづき、おすすめの中級英英をご紹介します。

ここでいう「初級」と「中級」の線引きはどこにあるのだ?という疑問が出てくるかもしれません。

本書の第1章から第6章までは、おもに①～④の辞書の語釈を紹介しました。それらが、和訳を見ることなくスッと頭にはいつてくるようであれば、すでにあなたはかなりの実力者。「初級」はスッ飛ばして中級英英、まずは⑥ *Longman Dictionary of American English* か、⑩ *Cambridge Learner's Dictionary* (☞ p.202) にトライされてはいかがでしょう。

#### ⑥ *Longman Dictionary of American English, 5th Edition*

第5版、2014年、英国ピアソン エデュケーション社、1,296 + 62頁、縦21.5 cm、約4,000円

中級英英ながら、文字サイズやレイアウトは初級英英なみの読みやすさ。そのためページが増えて1,400頁に近く、厚さは5センチ。サイズもアメリカンです。どんどん読み込んでいける優れた学習英英として、自信をもっておすすめできます。

書名のとおりに「アメリカン」なので発音表記は米国発音のみ。米国流が徹底していて、lift を引いても英国英語流の「エレベーター」には言及なし、flat を引いても「マンション」の語義はあっさり無

視です。

本文は多色刷りなので、イラストもカラー版です。見出し語は青文字ですが、重要9,000語は赤文字で刷り、うち最重要3,000語は赤マル3つ、次のレベルの重要3,000語は赤マル2つ、さらにその次の3,000語は赤マル1つをつけて、語彙学習の優先順を示します。

販売サイトによっては「CD-ROMつき」と書いてあるものがありますが、2014年刊の第5版にCD-ROMはついていません。

#### ⑦ *Longman Active Study Dictionary for intermediate – upper-intermediate learners, 5th Edition*

第5版、2010年、英国ピアソン エデュケーション社、1,040 + 56頁、縦19.7 cm、約7,000円

収録語彙や用例が⑥よりもやや少なめ。字体・文字サイズやレイアウトが、ロングマンの上級辞典 *Longman Dictionary of Contemporary English* (⑩ ☞ p.215) と基本的に同じなので、中級英英にしては読みにくいです。新品の価格が上がっていますので、中古品を使うのもよいでしょう。

第7章の冒頭で、初級英英の第1の条件として「文字の読みやすさ」を挙げ、その目安として「5行読み進んでも苦にならないか」と書きました。その流儀でいけば⑦と⑩は、4行目あたりから苦になりはじめる。英英辞典を使うのにかかなり慣れないと、これらを使うのは苦しいでしょう。⑦と⑩は文字づらの印象が同じで、判型だけ違う。まるで親と子を見るようです。

本文は全ページ多色刷りで、この辺は⑥と同じです。

英国英語を基調としつつ米国英語にもしっかり目配りしていて、英・米の両方をしっかりカバーしているのは⑥より優れている点です。例えば発音は、英国発音をまず示して \$ マークのあとに米国発音を示します。lift を引くと、BrE の表示のあとに「エレベーター」